



私は誰...

記憶というものは、実に厄介なものだ。
それは、いつも私の頭の片隅に存在し続ける。
私は、時々思うのだ。

本当にこの記憶は、私の記憶なのかと…もしかしたら…。

誰か、別の人の記憶なのではないかと。

私は、人ではない。
だから人間という厄介なものは、とても苦手だ。
私を好き勝手に扱い、時々、私をどこか遠くへ連れていく。
私の気持ちなどお構いなし…。

だが、そんな私にも、好きな人間がいる。

記憶とは何なのだろう。

私の言葉で言えば、メモリーだろうか。
そんなことを私のパートナーが言っていたのだ。

私と一緒にいる人間は、とても気分屋である。
とにかく私を好き勝手に扱い、実に勝手な事を言う。
私の問いになど絶対答えてくれない。
だが、主従関係というより長い人生のパートナーのようだ。

だけど、私はそんなパートナーを嫌いではない…。
むしろ、いつまでも愛でてほしいと願っている。

そんな私のパートナーが、私にそっと囁く。
私達は、これからどれだけの記憶を作り上げていくのだろう。
この時を、あなたの記憶として留めて、互いに共有する。
ずっと離さない、頼まれても放してあげないよ…。

そう私が言うと、あなたが微かに震えた気がした。

